

令和 5 年度流山本町活性化協議会 議事録

1. 開催日 令和 5 年 1 1 月 1 7 日（水）14 時～15 時 30 分

2. 出席者 委員 7 名（全委員 1 3 名中）、事務局 3 名

3. 会議内容

（1）決定事項

地方創生推進交付金について

→ 交付金を活用した 2 つの事業について、流山本町の活性化に有効な取り組みであると評価された。

（2）協議内容の詳細

◆ 地方創生推進交付金について

＜事務局からの説明＞

令和 4 年度に地方創生推進交付金を活用して行った事業は白みりん検定構築事業と古民家活用の仕組み構築事業の 2 つである。各事業についての概要は下記のとおり。

①白みりん検定構築業務

流山版のご当地検定として、白みりん検定を構築した。内容は楽しく白みりんについて学ぶことができるものになっている。令和 4 年度には公式テキストやホームページを完成させた。

②古民家活用の仕組みづくり業務

以前から続けてきた市の古民家活用事業について、古民家所有者と利用者とのマッチングに課題を抱えていたことから、流山版 DMO である流山ツーリズムデザインを窓口とした新たな仕組みづくりを行った。これまでの事例として、古民家でお店を開業する方は流山本町以外に住んでいることが多く、開業後の仕入れ先や周辺とのつながりに

ついて不安を持つ方もいた。そこで、流山ツーリズムデザインがその後をサポートし、まちをつなげる役割を担っていただきたいと考えている。

このことについて、委員から以下のような意見があった。

①白みりん検定構築業務について

A 委員：検定はいつから開始になるのか。

事務局：初級レベルであるビギナーコースの問題は現在すでに公開されており、中級レベルのマイスターコースは令和6年1月から開始される。

A 委員：合格証を見せるともらえる特典にはどのようなものがあるのか。

事務局：令和6年度末に開館予定の白みりんミュージアムでコンテンツを優先的に体験できるように検討する。また、同ミュージアムには物販スペースを設ける予定のため、そこで割引を受けられるようにも検討する。

B 委員：検定のテキストはもうできているのか。どこに行けば買うことができるのか。

事務局：販売はしておらず、申し込んだ方に郵送している。今年度はテストマーケティングとして、アンケートに答えていただく代わりに無料で配布している。今後はアンケートの結果も踏まえて金額を設定する。

B 委員：検定で学んだことが白みりんミュージアム等で実際に見ることができると良いと思う。

事務局：白みりんミュージアムでも昔の様子について展示を行うほか、史跡ガイドの会に協力いただいて、昔の流山本町について紹介するツアーの開催などを検討していきたい。

A 委員：一度合格したら更新の必要はないのか。

事務局：現在検討中。令和7年度以降はレベルアップした検定を白みりんミュージアムで開催する予定。

②古民家活用の仕組み構築事業

A 委員：商工会議所がどんな役割を担っているのか。

事務局：商工会議所の経営指導員に申請者が実際に事業を行えるのか、アドバイスしていただく。

C 委員：事業を進めるにあたってウェブサイトの構築は重要だと考えている。十日町市の古民家活用事例を視察したが、地域のつながりがとても重要だと感じた。

事務局：若い人はウェブやSNSで情報を得ることが多いため、そういった発信は重要だと考えている。出店しても孤立しない仕組みを作っていきたい。

C 委員：仕組みづくりと運営に対する費用は市が支出しているのか。

事務局：令和7年度までは、国の地方創生推進交付金に位置付けており、国と市からの財源を基に市が補助金として支出をしている。今後事業が軌道に乗ってコンサルティング料をもらうなどのビジネスモデルに進めていけたらよいと考えている。

C 委員：古民家を活用したシェアハウスは良いのではないかな。

事務局：宿泊業を伴う観光には、夜間の経済活性化という利点もあるが、流山本町のコンセプトが日帰りであることや、宿泊のニーズが判らないことから、未知数な部分がある。

C 委員：流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金がスタートしてからの事例はどれくらいあるのか。

事務局：移転した店舗なども含めて全12店舗ある。業種としては飲食店が多い。machiminだけ観光案内所機能がある。昨年度は4店舗開店したが、その前年は0件だった。0件の年にも補助金に関する問い合わせはあったが、すぐに使用できる古民家がなく、計画が流れてしまったものもあった。

D 委員：補助金の交付が終了したら、市とお店の関係性はなくなってしまうのか。

事務局：市としては、流山本町にお店を出していただいた方々とは、仮に交付期間が終わっても連携を続けていただきたいと考えている。

D 委員：古民家所有者にはこの事業の説明をしたのか。

事務局：1件ずつ古民家の所有者のもとを訪問した。今後も定期的に状況を確認し、取り壊す前に市に相談してもらえる仕組みを作りたい。

D 委員：ぜひこのまま実施してもらいたい。

B 委員：補助金制度は中長期的な戦略であると思うが、貸す方も借りる方も責任が重いため、短期間お試しでできる方法として屋台やキッチンカーを出すのはどうか。保健所の申請などは必要だと思うが、流山本町の町並みにあった昔の雰囲気を活かしたような屋台を開いたら面白いと思う。

事務局：屋台そのものは実現できるかわからないが、以前、オープンする前にシェアキッチンでトライアル営業をしていた店舗もある。また、白みりんミュージアムにはキッチンスタジオを設置するため、指定管理者がシェアキッチンのような仕組みとして活用する可能性がある。このような取り組みが古民家でできるとおもしろいと考えている。

以　　上